



特定非営利活動法人 なんとなくのにお 通信

URL <http://www.nantonakuno.net/>

Mail info@nantonakuno.net

居場所のひとこま・4月8日

4月8日、金曜日の午後です。「子どもの居場所」の玄関を入ると、いつもよりにぎやかな雰囲気を感じました。靴をぬいですぐ右側のパソコンやディスプレイが並ぶ部屋は、おしゃべり、カードゲームなど、テーブルのまわりに子どもたちの輪ができています。そういえば、この4月にみんな進級しているはず。中学校に進学した子どもも何人かいます。ちょっとうれしくて、少し緊張しているかもしれない。来週月曜日は入学式です。

「こんにちは」と子どもたちにあいさつして廊下を進み、奥の部屋へ。「見学に来ました」とお母さんがふたり。県南で「子どもの居場所」を作りたいと考えているとのこと。12年前、報徳会館で「子どもの居場所」を始めた経緯や、NPOを作るための面倒な事務処理など、あれこれ話していたら、新中学生が共用iPad(mini)に「マイクラフト」をインストールしたいと相談に来ました。最近「なんにわ」パソコンで流行っている、立方体ブロックを壊したり作ったりして仮想空間に世界を作るゲームです。「ソフト買うには、お金がかかるなあ」、でもこのソフト、どこかの小学校で使ってるという話もあります。「進学祝いに、今回は買ってあげようか」と会計の沼尾さんに相談。支払いはできるかなということになり、クレジットカードが使えるはずなので沼尾さんがiPadに向かう。最後の認証で「セキュリティコード」がわからない。今日のうちにゲームを動かしたい。どうしよう。あ、コンビニで「iTunes」のギフト券を売っているのではないかと誰かが気づきました。新中学生、県南からお母さんと来た青年、沼尾さんの3人で散歩がてら、JR駅の向こうにあるコンビニに買いに行く話がまとまり、意気揚々と出発。

あれ、玄関にだれか来ています。昨年10月ごろから小学校過程のおさらいのため居場所に通っていた子とお母さんです。「学習の援助をありがとうございました。来週は中学入学なのでお礼に来ました」とあいさつして帰られました。ほんの



イラスト：numata

短い時間だったけれど、金属が酸に溶ける実験などに興味を持ち、目を輝かせた子です。とてもうれしく思いました。

県南からのお母さんに、(1) 1年目は予算なしで「居場所」を始めたこと、(2) その後、市教委からの補助金や会費・寄付金で運営したこと、(3) 2013年より日光市の委託事業に転換し4年目を迎えたことなどを伝えながら、総会資料や法人の定款などをお渡ししました。

そうこうしているうちに(40分くらいだったかな)、3人が無事帰還。さあ、このギフト券番号でソフトが買える。みんなで入力操作をやってみました。うまくいきません。iPadで使えないカードを買ってきてしまったのかも。困ったなあ。そうそう、彼に頼めばやってくれるのでは。居場所利用の若者をお願いしました。ちょっと首をかしげていたけれど、すぐ支払い完了。「マイクラフト」、iPadへのインストール成功です。「なんにわ」ならではの連係プレーでした。

「久しぶりに来たのでドライブしてきます」と県南からのお母さんたちは日光見物に出かけました。「居場所」ってこんな様子でやってるんだと...なにか感じていただけたでしょうか。ほんの数時間の間に、いろんなことがあった午後でした。

「子どもの居場所」は昨年同様、日光市からの委託により「なんとなくのにお」が運営しています。今年度もみなさまのご理解、ご協力をよろしく願います。(手塚)

目次

居場所のひとこま・4月8日	1
「多様な」教育機会確保法案 その後	2
活動日誌	3
空間放射線量測定 Safecast	3
こんな本はいかがが・33	4

NPO法人 なんとなくのにお

第12回 通常総会

2016年5月7日(土)

午後2時より

会場：子どもの居場所
(日光市平ヶ崎)

事業報告・決算報告・事業計画・予算案

今年は「市民活動支援センター」が建替えのため使用できませんので、「居場所」で総会を開きます。会員が交流し、意見交換できる場です。お誘い合わせの上、気軽にご参加ください。

子育て・親育ちの茶話会

場所：子どもの居場所(日光市平ヶ崎)

日時：毎月第2月曜日(午前10時～12時)

次回の予定はお問い合わせください。

参加費：300円(お茶代)

同じ悩みを持つ親御さん同士、気持ちを許し合って、情報や悩みを分かち合いましょ。

「一人で悩まず、みんなで！」を合い言葉に。

(Tel:090-3227-7079)

「多様な」教育機会確保法案・その後

前号で加藤敦也さん(社会学者/大学非常勤講師)の論文「多様な教育機会確保法案に寄せて」を軸に「義務教育の段階における普通教育の多様な機会の確保に関する法律案」を紹介しました。その通信42号発行の直後、法案に急転回があり、法案名は「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律案」と変わりました。タイトルが長くなるというのは焦点がぼけてくるということなのかもしれないと思いつつ、前案と比べてみたところ「多様な」という形容詞が表題から消えていました。

修正された座長試案(3月4日)では「多様な」が3か所使われています。三条二項には「不登校児童生徒が安心して学校において普通教育を十分に受けられる環境を整備しつつ、不登校児童生徒が行う多様な学習活動の実情を踏まえ、不登校児童生徒の個別の状況に応じた必要な支援が行われるようにすること」とあります。

他の2か所も上の下線部と同じく、「不登校の児童生徒」または「普通教育に相当する教育を十分に受けていない者」が行う「多様な学習活動」という条文になっており、「多様な」という言葉を「不登校」の中に押し込んでしまったような印象を受けます。不登校生の学習は「多様」であっても仕方ないが、学校での学習に「多様さ」は必要ないという姿勢を感じてしまいます。多様な子どもたちの学びを、さまざまな方向から先生たちが支援していくというスタイルが、これからの学校ではないのでしょうか。多様な支援の場をあちこちに用意し、好きなところに行ってもらおうという現在の対策は、とりあえずの応急処置と考えるべきです。

修正案からは「保護者による個別学習計画作成」や「市町村教育委員会の認定」がなくなりました。この「個別計画」はちょっと面白い試みだと思っていたので残念

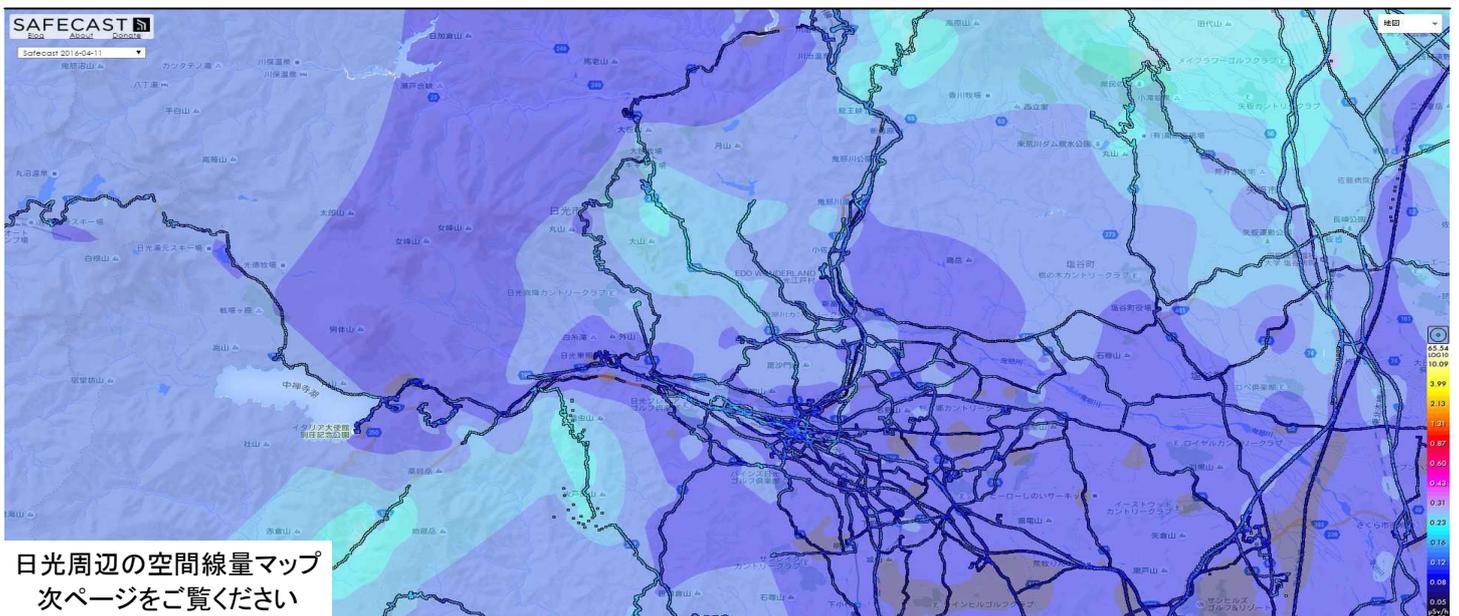
です。アメリカでは、保護者が「ホームスクーリング」を選んだ場合、子ども、保護者、教師と一緒に学習計画を作成するとのことです。日本の公立学校は学校長が学校運営、職員の管理に対して大きな権限を持っています。しかも教員の能力は高い。学校現場に集約されている知的資源を駆使して、その子に合った「学び」を作りあげ、教育委員会は学校長が提示した学習計画を承認するといった方向に動くのだろうか、想像をめぐらしました。検討委員会はまだ議論中なのかもしれません。この消えた条項、各方面への影響は大きく、改革の目玉になるのではと、個人的には復活を期待しています。

最後に法案の現状を「教育新聞」・2016年3月30日付より、以下に引用します。法案の今後を注視したいと思います。(手塚)

【自民が了承 教育機会確保法案】

自民党の文科部会は3月30日、超党派フリースクール議連で議論されている不登校児童生徒の教育機会を確保する法案について了承した。これには、学校以外の学習の場を尊重し、登校に無理がないよう「休養」の必要性を打ち出した。今後は、各党の了解を待って今国会に提出したい考えだ。

法案名は「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法案」。理念としては、不登校児童生徒の多様な学習の実情に合わせた支援が必要だとした。学校に対しては、環境整備を図るように求めた。具体的には、不登校特例校や教育支援センターの充実、教員、心理・福祉の専門家との情報共有の促進が明記された。議連では、フリースクールなど学校以外での学びを義務教育としてみなす案も検討したが、与野党から異論が噴出し、見送った。



☆ 活動日誌

- 1月27日(水) 通信「なんとなくのひろば」第42号 発行
 2月 8日(月) 茶話会(第64回)
 2月12日(金) 障害自立支援機器
 「シーズ・ニーズマッチング交流会2015」
 ～作る人と使う人の交流会～ TOC有明コンベンションホール
 2月14日(日) 「アルコール依存症と飲酒運転」
 とちぎ福祉プラザ 岡本台病院 黒田仁一院長
 2月24日(水) 「発達障害の診断基準や薬物療法について」
 とちぎリハビリテーションセンター、川村学園女子大教授 渡邊昭彦
 2月28日(日) ベリー会：学習会
 3月 2日(水) 第70回 理事会
 3月14日(月) 茶話会(第65回)
 3月27日(日) ベリー会：月例会
 3月29日(火) 子どもの居場所・運營業務委託入札手続(市役所)
 4月 2日(火) 子どもの居場所・2016年度スタート
 4月 2日(火) 映画「みんなの学校」鑑賞
 4月11日(月) 茶話会(第66回)



Safecast による日光地区の空間放射線量測定 — 環境研究班より

昨年5月に「Safecast」という空間放射線量測定器キットを購入しました。基板に部品を半田ごてで取り付けながら組み立てていく作業は久しぶりでした。マニュアル(英文)の誤読や結線の間違いなどのトラブルつづしを含め、ゴールデンウィークの1日を費やして完成。次の日には測定可能となりました。

Safecastはキットごとにシリアル番号を持っています。ネット上のサーバにユーザ登録をすると、測定結果をアップロードでき、全世界から閲覧可能な空間放射線量マップ(*)へ数日のうちに反映されます。測定器にはガイガーカウンタだけでなく、GPSチップおよびデータをマイクロSDカードに書き込むための小型PCが詰め込まれており、スイッチ操作で「マイクロシーベルトで表示する空間線量計」と「1分ごとの平均カウント数(CPM)の記録計」に切り替わる機能も持ちます。CPMモードにセットし、車に付けて走り回することで、CPM値と位置座標、高度および時刻が5秒おきに記録されます。もちろん、バッグに取り付けて歩き回ることもできます。終了後にカードを取り出し、パソコンにセットしてアップロードするという単純な手続きで、世界中のユーザとデータを共有できるというすばらしいシステムが構築されているのです。これまでに約50回の測定を行い、約4万データ点をアップロードしました。日光周辺のデータの多くは私たちの測定によるものです。

福島原発の事故をきっかけに開発されたこの測定器、そしてネット上のデータ管理と閲覧システムを作り上げたメンバーたちの詳細はインターネットで見ることができます。データセンターはどうやらMIT(アメリカ)に置かれているようです。国際的なチームプレイがなされ、あくまで個人の立場で有志を募り、協力し合っているというスタイルはすばらしいと思います。

この測定器に興味のある方は購入(**)および組み立てのアドバイスをいたします。ご連絡ください。

(*) safecast.org/tilemap/

左図が線量マップのイメージです。空間線量値で色分け表示になっています。ぜひネットでご覧ください。

(**) 米国アマゾンから買う

日本の業者からは購入できません。

右下写真：車に取り付けた Safecast (霧降高原にて)

(環境研究班 三上、手塚)



特定非営利活動法人 なんとなくのになわ 通信

〒321-1261 栃木県日光市今市378
電話 090-3227-7079 / Fax 0288-21-2631
E-mail: info@nantonakuno.net
ホームページもご覧ください。
<http://www.nantonakuno.net/>



私たちの活動目的：

日光市とその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して、学習や自立のための支援活動と地域への啓発活動を行い、社会に出た後も継続性のある、支援と学びの場を作り出します。

私たちの事業：

- ① 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営
- ② 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発
- ③ インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援
- ④ 教育についての相談や情報提供活動
- ⑤ 学校外で育つ青少年の自立に関する相談および就労を支援する活動
- ⑥ 自然環境の中での学びを作り出し、自然環境保全の大切さを啓発する活動
- ⑦ 障がいの理解および啓発に関する企画運営事業
- ⑧ 第二種社会福祉事業の相談支援事業経営

こんな本はいかが？

その 33: 「アドラー心理学の本」

今から一世紀ほど前に活躍した、アルフレッド・アドラー (1870~1937) という心理学者をご存知でしょうか。このところEテレ「100分de名著」などでもアドラーの本が取り上げられ、新聞の広告でも、岸見一郎・著の「嫌われる勇気」が何度も紹介されていました。宇都宮のある図書館では140人待ちだとか・・・！！

「嫌われる勇気」岸見一郎 古賀史健・著 2015年ダイヤモンド社

この本は、アドラーの思想を、「青年と哲人の対話篇」という物語形式を用いてまとめた一冊です。「どうすれば人は幸せに生きることができるか」という哲学的な問いに、「人はいま、この瞬間から幸せになれる」と断言します。

悩める青年に、哲人は「あなたの不幸は、あなた自身が選んだもの」と言い、「全ての悩みは、『対人関係の悩み』である」とも言っています。「人は常に『変わらない』という決心をしている」「自慢する人は、劣等感を感じている」「人生は他者との競争ではない」「普通であることの勇気」など・・・極端な発言と思われるかもしれませんが、私にとっては、納得できる言葉がたくさんありました。

「幸せになる勇気」岸見一郎 古賀史健・著 2016年ダイヤモンド社

この本は、「嫌われる勇気」の続編です。前作同様、「青年と哲人の対話」で話が進みます。本書のテーマは「本当の『自立』と本当の『愛』」。幸せに生きるために誰もがなさなければならない「人生最大の選択」とは何なのか？

「尊敬とは『ありのままにその人を見る』こと」「勇気は伝染し、尊敬も伝染する」「教育とは『仕事』ではなく『交友』」「人生は『なんでもない日々』が試練となる」「人は『愛すること』を恐れている」「愛される人生ではなく愛する人生を選べ」など・・・前作は図書館から借りて読みましたが、本書は手元に置きたいと思い、買い求めました。(白井)

会員について

正会員: 43
賛助会員: 19
団体会員: 4
入会金はありません。

年会費(一口)
正会員 3,000円
賛助会員
個人 5,000円
団体 10,000円



私たちの活動は会費と寄付金でまかなわれています。会員を継続し、応援よろしくお願ひします。会員は新たな事業の提案、会の事業の運営などに直接かかわることができます。皆様の積極的な参加をお願いいたします。

なんとなくのへや

朝日新聞に「吾輩は猫である」が連載されている。夏目漱石が新聞小説として「こころ」の連載を始めたのが1914年4月。100周年を記念して2014年4月から「こころ」の再連載が始まり、「三四郎」「それから」「門」と続き、今回は「猫」が登場した■新聞の連載小説というのを讀んだ経験がなかった。この試みに付き合ってみて、毎日決まった長さで掲載されるのを讀むというのも面白いと思った。余韻が頭の隅に残り、次の日につながる。ちょっとした日々の楽しみである■さて、「猫」は腹が痛くなるほど笑いながら何回も讀んだ。はじめは小学6年生だったか。その割には、どこがおもしろかったのかまったく覚えていないのは不思議だ。記憶にあるのは「蛙の目玉の電動作用に対する紫外線の研究」とか「首縊りの力学」など、どうも寒月君に関する挿話が多い■今回は新聞小説として、お弁当のように毎日パックに詰められた「猫」を讀むことができる。朝食後に歯磨きをしながら台所で新聞を広げて讀む。短く区切られることで、猫が觀察した人間世界の描写や、人の生活に対する批評が印象的であることに気付いた。漱石はこれを狙っていたのかと納得しつつ、いままでと違った「猫」が見えてくるのではと期待している。(T)